Ⅰ　令和５年度　寒川東中学校　学校経営方針　グランドデザイン

寒川東中学校学校教育目標

ゆたかな心とたしかな力をめざして

1. 心身ともに健康で、思いやりのある人（体・徳）
1. 知性をみがき、情操豊かな人（知・美）
1. 真理を求め、正しく判断し実行する人（真・善）

を育てる。　（平成元年５月 29 日制定）

東中生としての誇

【令和5年度重点目標：めざす生徒の姿】

よく考え、思いやる心をもって、自ら学校生活をつくっていく生徒

【令和5年度重点目標：めざす学校の在り方】

新たな時代に向かって、一人ひとりが可能性を発揮できる学校

継続と進化

【そのために何を意識するのか】

授業力の向上

①生徒に身に付けるべき力を習得させるための適切な指導力

②的確な指導のために必要となる豊かな専門性

③学力の適切な評価と今後につながる指導

ゆたかな心とたしかな力の育成

①お互いを認め合い成長させる集団づくり

②生徒の可能性が発揮できる場面づくり

③学校生活をより良くするための工夫と環境整備

信頼ある関係づくり

①めざす生徒像と指導の方向性の職員間共有

②学校生活における生徒の丁寧な見取りと家庭との連携

③生徒の成長につながる生徒指導と教育相談

保護者・地域の願いとともに（学校運営協議会との連携）

【具体的に何をするのか】

【授業力の向上】	【ゆたなか心とたしかな力の育成】	【信頼ある関係づくり】
○教師の説明と理解確認を精選し、生徒を理解深化に導く授業づくり ○安心し集中できる授業づくり ○信頼できる学習評価 ○補充学習の充実 ○専門的指導力向上のための積極的な授業研究 ○タブレット端末の効果的な活用のための研究（継続） ○FLT の配置を生かした日常的英語活用能力の育成	○生徒とともに活動の価値と目的の共有 ○生徒の関わり合いを重視した活動 ○異学年交流・アウォード活動の充実 ○目標に沿ったフレームにおける適切な活動場面の設定と評価 ○自分からあいさつする生徒の育成 ○道徳教育、ボランティア活動を通した心の育成 ○より良くするための挑戦を恐れない姿勢	○めざす方向の共通理解に基づく統一された指導体制 ○日常における生徒の細やかな観察と声かけ ○保護者への丁寧な情報連携 ○教師としての信頼ある言動 ○教育相談体制の充実、機関との連携 ○生活アンケートの活用 ○多様性の理解

Ⅱ　重点目標

＜めざす生徒の姿＞	**よく考え、思いやる心をもって、自ら学校生活をつくっていく生徒**
＜めざす学校の在り方＞	**新たな時代に向かって、一人ひとりが可能性を発揮できる学校**

寒川東中学校は、明るく屈託がなく素直で活動的であることを東中生の誇りとして受け継いできた。ここに示す「めざす生徒の姿」は、よく考えること、相手を思いやることを大切にして、自分のかけがえのない中学校生活に自らが関わろうとするそんな生徒の逞しさを願ったものである。そこには決して一人ではない「自分たち」という意識と充実感を含み、毎日の生活を楽しみ、学校教育目標でもある「ゆたかな心とたしかな力」を身に付けた人間として成長してほしい、という願いを込めて定めたものである。そうして３学年が気持ちを一つにして、昇降口に傘立てを置ける学校（安心して学校生活に励むことができる学校）を実現した。この３年間特別な状況下にありながらも、仲間と協力し、自分を磨き、信頼し合える学校づくりを全校で行ってきた。「めざす生徒の姿」には、教職員、保護者、地域の未来であり希望でもある寒川東中学校の生徒として自信をもって前に進んでほしいという全員の願いを込めている。

また、学校も世代交代の時期に入り、経験の有無に関わらず積極的に学校づくりに参画する時代になりつつある。変化することを恐れることなく、試されることを成長の起点と捉え、主体的な学校づくりを全職員で行っていきたいと考える。生徒、職員ともに各自の良さが光り躍動感あふれる学校として進化し続ける学校でありたい。

１．授業力の向上

①生徒に身に付けるべき力を習得させるための適切な指導力

〇教師の説明と理解確認を精選し、生徒を理解深化に導くための授業づくりの工夫
〇安心し、集中できる授業づくり
〇FLT（外国人指導者）配置を生かした日常的英語活用能力の育成

②的確な指導のために必要となる豊かな専門性

〇専門的指導力向上のための積極的な授業研究
〇タブレット端末の効果的な活用のための研究（校内研究）
〇学習環境の整備（オンライン授業）

【専門性を高める判断の拠りどころ】

① 原因と結果・・・多面的・多角的な分析を行い、起きている事象が原因なのか、結果なのかを冷静に考察し、より良い指導につなげる。
② 目的と手段・・・前年踏襲、もしくは安易に改変するのではなく、「目的と手段」を視点として考える。
③ 普遍と特殊・・・流行や情報に惑わされることなく、普遍のものか、特殊なものかを見極める。
④ 全体と部分・・・起きている現象や寄せられる意見が一部のものか、全体のものかを判断し、態勢を整える。
⑤ 必然と偶然・・・必然として起きた現象か、偶然に起きた現象かによって今後の活動を判断する。

③学力の適切な評価と今後につながる指導

〇信頼できる学習評価
〇補充学習の充実

２．ゆたかな心とたしかな力の育成

①お互いを認め合い成長させる集団づくり

○生徒の関わり合いを重視した活動
○学校づくり、学年づくり、学級づくり
○道徳教育を通した心の育成（道徳の時間の充実）
○ボランティア活動、生き方を考える活動から学ぶ

②生徒の可能性が発揮できる場面づくり

○目標に沿ったフレームにおける適切な活動場面の設定と評価
○生徒とともに活動の価値と目的の共有
○異学年交流・アウォード活動の充実

【活動実施を判断するために大切にすべき視点】

これは生徒のためになるのか　　**目的を十分突き詰めた上でのことか**

目標を生徒と共有しながら、生徒を前面に出した活動を設定する。
教員が**フレーム**を作り、その中で生徒を前面に出した活動を設定することが大切。
活動を通して適切な評価（把握）を行う。

③学校生活をより良くするための工夫と環境整備

○ふだんの生活から生徒を育成する視点（行事がなくても日常的に安定して取り組む文化を大切にする。目立たないことにも気づくことができる関係）
○自分からあいさつする生徒（お互いを尊重する態度につなげる）
○より良くするための挑戦を恐れない姿勢（できない理由を探すより、どうしたら前進するか）
○教育環境の整備と創意工夫

３．信頼ある関係づくり

①めざす生徒像と指導の方向性の職員間共有

○めざす方向の共通理解に基づく統一された指導体制
○適切な見取りのための職員間連携
○教師としての信頼ある言動
○チームワークの良い職員集団がより良い生徒集団をつくる

②学校生活における生徒の丁寧な見取りと家庭との連携

○日常における生徒の細やかな観察と声かけ
○保護者への丁寧な情報連携
○事実の認識（思い込みをもって対応しない。偏りのない事実の認識）
○多様性の理解

③生徒の成長につながる生徒指導と教育相談

○見通しを持った生徒指導と教育相談
○職員の役割分担と協力体制の充実
○生活アンケートの活用
○保護者、関係機関との連携

Ⅲ　これまでの取り組みから特に継続・進化させること

１．ゆたかな心を育てるために

①教職員と生徒との信頼関係づくり

・生徒の話をよく聴く。生徒の伝えたいことを正確に聴き取り、受けとめてから話を進める
・めざす生徒の姿の共通理解を踏まえたうえでの統一された教員の対応
・信頼できる授業づくり（適切な学習指導と学習評価及び学習環境づくり）
・保護者との連携

②生徒同士の信頼関係づくり

・生徒が主体となり関わり合いの中で成長させる
・お互いに認め合う関係づくり（行事での認め合い、異学年交流、アウォード活動、自分からあいさつ）

③安全への意識づくり

・自分たちで安心できる環境をつくっていくという意識をもって行動する
・状況を考えて行動できる意識を育てる（日常の移動時も主体的に考えて行動）

④道徳教育での意識づくり

・目標を踏まえた指導計画に基づく確実な実践

⑤生徒のことは生徒にまかせる場面づくり

・生徒に考えて行動させる場面の設定
・自分たちで管理･運営させる（時間を意識、適切な事前指導、リーダーを支える力、リーダーへの準備）
・委員会活動・部活動の充実（委員会・部活動で養うもの、目標の共通理解）

⑥自分たちが学校を創っていくという自信・責任・行動

・安心して学校生活をおくることができる環境は自分達がつくっているという意識
・危険な状態、いつもと異なる状況等（濡れている廊下や階段、破損などの異常）を放置しない

２．たしかな力を育てるために

①生徒を「理解深化」に導くために授業づくりを工夫し、「たしかな力」を身に付けさせる

・教員の言葉を精選し、要点をわかりやすくする。今日の授業で大切にしたいことを踏まえ、生徒が「考えた」「深めた」という充実感が持てるように授業を構成する。それにより、生徒の理解確認・深化につなげ、「もっと知りたい、学びたい」という学習意欲につなげる

②本時もしくは単元で育てるべき力の明確化

・どこまでできれば学習が達成となるのかを生徒に明示する

③「教師の説明」の焦点化

・本時の授業の見通しを立て、説明内容を吟味する
・タブレット端末も含め、目的にそって手段を工夫する

④「理解確認」の方法の工夫

・スモールステップに配慮し、ペアワークの工夫や時間確保に留意する
・生徒の理解が弱い部分の発見や気づきを促す

⑤「理解深化」の工夫

・すべての生徒が取り組めるように理解深化の課題を工夫する
・生徒の「なるほど、そういうことだったのか」の声を引き出す

⑥「自己評価」の工夫

・今日の授業で何がわかり何がわからないかを明らかにし、わからないことへの解決の手立てを考えさせる
・補充的な課題を提案し、生徒の自主的な学習につなげる

⑦ICT 機器（タブレット端末）の効果的な活用

・本時の目標に迫るためのアプローチの方法を整理する
・タブレット端末を用いることの目的を明確にし、使用場面を精選する
・本時の目標に迫り、生徒の学習意欲を引き出すための一手段が効果的であったかを検証し、次につなげる